

彙報

◆令和五年度卒業論文 文学部 日本語日本文学科 日本語日本文学専攻

超越的能力者に対する比喩表現
触覚表現における類義語研究

稲垣 明香里

——口中触覚を中心に——

真川 莉緒

現代における感情表現の位相

鈴木 結季音

優先度の低い情報を表す語の研究

——「なにげに」を中心に——

田村 滉邦

現代語における強調を表す接頭辞の研究

——「爆」を中心に——

杉山 未也子

現代における好意的表現の諸相

——「萌え」を中心とした考察——

山岸 天舜

日常会話における汎用性の高い副詞

——「しれっと」を中心に——

樋田 菜月

現代日本語におけるカタカナ表記の研究

長尾 瑛里菜

現代日本語における「かわいい」との複合による意味拡張

——「あざとさ」を中心に——

鈴木 基方

現代における「熱中」を表す語の研究

——「沼る」を中心に——

今井 健太

現代に見られる動詞の意味拡張について

——「盛る」を中心に——

日下部 まみ

意見の強弱を表す語の研究

——「べき」の変化を中心に——

伊藤 美彩

現代語における否定的表現の肯定的使用

——「悶絶」を中心に——

近藤 里奈

若者言葉における語彙の変化

——「死ぬ」を中心に——

日比野 舞

坂口安吾『女体』論

——素子という女——

太田 真緒

太宰治『斜陽』論

——かず子の内なる蛇——

本庄 あずき

武田泰淳『ひかりごけ』論

——第四の壁と読者の立ち位置——

成田 響

江戸川乱歩『孤島の鬼』論

——蓑浦の語り——

浅野 茉里美

大岡昇平『野火』における女性表象

森 朝香

三島由紀夫『仮面の告白』論

——引裂かれる「私」と〈不在〉——

畑中 未都

小川洋子「薬指の標本」論

——標本と反転する「わたし」—— 木村 楓花

太宰治『浦島さん』論

——「笑い」から見る「浦島さん」の世界——

富田 さやか

堀江敏幸「スタンス・ドット」論

——（ハイオクさんの音）がもたらすノスタルジア——

宮田 侑理子

堀辰雄『風立ちぬ』論

——サナトリウムとユートピア——

天野 弘大

『源氏物語』における「きよら」と「きよげ」の考察

附柴 航

『源氏物語』の「かをる」「にはふ」考

仙石 妃歩

『源氏物語』の浮舟の和歌表現について

——「袖ふれし人」（手習巻）を中心に——

奥山 由督

『源氏物語』における「頼もし」について

——「頼む」「頼もしげ」との関連から——

中島 一彰

『源氏物語』の「ゆゆし」について

『堤中納言物語』「はいずみ」の研究

——「二人妻説話」の比較を通じて——

福岡 駿哉

『南総里見八犬伝』の研究

——伏姫を中心に——

『雨月物語』「蛇性の姪」の研究

——真女子像を中心に——

『春雨物語』「目ひとつの神」の研究

——「ふしぎ」と「いつはり」——

『沙石集』の研究

——梵舜本と米沢本の伝本差異に着目して——

松浦 桃佳

『武道伝来記』巻四の一「太夫格子に立つ名の男」の研究

勝山 紗衣

『男色大鑑』巻一の四「玉章は鱷に通はず」の研究

佐藤 千奈乃

『雨月物語』「吉備津の釜」の研究

——「嫉婦論」を中心に——

『好色五人女』巻一「姿姫路清十郎物語」の研究

遠山 美樹

『堤中納言物語』「虫愛づる姫君」の研究 大蔵 胡桃

『世間胸算用』「鼠の文づかひ」の研究

—老婆に着目して— 井出 莉咲

『西山物語』の研究

—「かへ」を中心に— 柴田 梨歩

芥川龍之介「運」の研究

—『今昔物語集』との比較を中心に—

齋藤 安結

『ドグラ・マグラ』にみる主人公の話体

—記憶喪失前後における言語行動—

伊藤 楓華

ネットニュースの見出しにおける省略

—文末表現に着目して— 鈴木 理子

連続テレビ小説『なつぞら』における十勝方言の使用

新美 歩希

海外映画のタイトルはどのように翻訳されているか

—日本語と英語の表現をめぐって—

渡邊 悠太

テレビドラマにおける女性文末詞について

—制作年代の異なる「金田一少年の事件簿」を比較して—

杉浦 穂波

時代による流行語の変化とこれから

—SNSの発達に着目して—

現代日本語の言いさし表現について 山口 奈月

日本語指導が必要な生徒に対する国語教育

—リライト教材による調査を通して—

奥地 咲仁

『日曜討論』に見る政治家のファイラー

『星の王子さま』における登場人物像 亀山 裕暉

—人称表現と言語ストラテジーを中心に—

岩見 麻里菜

さくらももこ作品におけるオノマトペ表現

泉澤 萌香

作詞家はどのような語句を使用しているか

—阿久悠、秋元康、小室哲哉の歌詞を比較する—

望月 玲奈

炭酸飲料水の広告にみるキャッチコピーとその効果

榊原 綾音

◇令和六年度 愛知大学国文学会行事

令和六年度 愛知大学国文学会

令和六年十月二十九日(火) 記念会館三階小講堂

いて―他の平安和文との比較から―

◇愛知大学国文学会 役員

卒業論文中間発表会

・「日本語表現学・日本語教育の研究」 平高ゼミ

代表・黎瑠瑠「中国語を母語とする日本語学習者のファイラーの使用」

・「日本古典文学の研究」 空井ゼミ

代表・松尾悠『方丈記』の研究―長明の人生と執念―

・「現代日本語の研究」 漆谷ゼミ

代表・石垣真茄「日本現代文学における当て字の研究」

・「日本近現代文学の研究」 藤井ゼミ

代表・杉浦ななこ 谷崎潤一郎『猫と庄造と二人のをんな』
論―超自然的な「リ、ー」―

・「古典日本語の研究」 和田ゼミ

代表・吉良胡桃『源氏物語』における「おもしろし」につ

【会長】 和田明美

【副会長】 漆谷広樹、高山喜樹、山内重雄、谷彰

【編集】 渡辺章夫、漆谷広樹

【会計】 漆谷広樹

【会計監査】 日比野浩信、松村美奈

【幹事】 漆谷広樹

岡崎 日本文化講座

源氏物語と徳川家

講師:和田 明美(愛知大学教授)

司会&コメンテーター:黒柳 孝夫(愛知大学名誉教授)

◇◇NHK大河ドラマ「光る君へ」から源氏物語の魅力に迫る◇◇



日時: 2024年10月6日(日) 13:30~15:00

場所: 岡崎市図書館交流プラザ・りぶらNo.103 (岡崎市康生西 4-71)

主催: 愛知大学国文学会・古文の会・愛知大学同窓会岡崎支部

後援: 岡崎市教育委員会

問合せ先: 児玉弘枝 (古文の会代表)

宇野弘隆 (愛知大学同窓会岡崎支部長)

和田明美 (愛知大学国文学会会長)

※資料代 500 円・高校生無料

※定員 60 名 (先着順・予約不要)

TEL 090-6081-7186

TEL 090-7951-9088

Email: awada@vega.aichi-u.ac.jp



『愛知大學 國文學』論文投稿規定

- ① 投稿は愛知大学国文学会員(学生会員を含む)に限りです。
 - ② 内容は、日本文学、日本語学、日本語現学、日本語教育等に関する未発表のものに限りです。投稿原稿の種類は、論文・資料紹介・研究ノート等です。
 - ③ 投稿原稿の分量は、本文・注を含めて四〇〇字×四〇枚を基準とします。それを超える場合は分割掲載や枚数の削減をお願いします。
 - ④ 投稿はオリジナル原稿一部(手書き原稿は不可とします)とコピー二部を左記の住所までご提出ください。また、採否をお知らせする必要上、メールアドレス等、連絡先を添えてください。
- 【原稿の送付先】
〒四四一―八五二二
愛知県豊橋市町畑町一―一 愛知大学研究館
愛知大学国文学会『愛知大學 國文學』編集委員会
- ⑤ 投稿原稿の採否・掲載順序については編集委員会にお任せください。
 - ⑥ 投稿原稿が採用になった場合には、電子データをご提出いただきます。

⑦ 採用された論文は、『愛知大學 國文學』に紙媒体で掲載されると同時に、愛知大学図書館の機関リポジトリを通じて公開(オープンアクセス)されます。投稿の時点で「ご了承ください」。

『愛知大學 國文學』第六五号原稿募集

・発行予定 二〇二六年一月

・原稿締切日 二〇二五年八月末日